岡部藩について

制作　田中　学

令和五年一月

渋沢栄一と岡部陣屋

論語を学び、深い教養を身につけた渋沢栄一は安政３年（１８５６年）、岡部陣屋で生涯忘れ難い屈辱を経験する。満１６歳のことだった。

NHK「青天を衝け」より

渋沢栄一と岡部陣屋

渋沢栄一は、岡部陣屋の代官から御用金五百両を要求され「父に伺ってから返事」と応えたが、無礼者と罵倒され「幕藩体制」や「士農工商」の身分制度に大きな疑問を抱いた。

NHK「青天を衝け」の渋沢栄一（演：吉沢亮）

NHK「青天を衝け」の代官　若森権六（演：酒向芳）

岡部藩は、武蔵国榛沢郡岡部（現在の埼玉県深谷市）に存在した藩です。

石高は2万石を超えた大名格ですが、城は無く藩庁は岡部陣屋でした。

岡部藩は安部摂津守が領主でした。主な領地は・・・

むさし　はんざわ　おかべ
武蔵国榛沢郡の岡部

せっつ　てしま　さくらいだに
摂津国豊嶋郡の桜井谷

みかわ　やな　はんばら
三河国八名郡の半原

江戸時代、関八州は、天領（幕府直轄領）や私領、旗本領、寺社領など）が各地に散在していました。

岡部陣屋の位置図

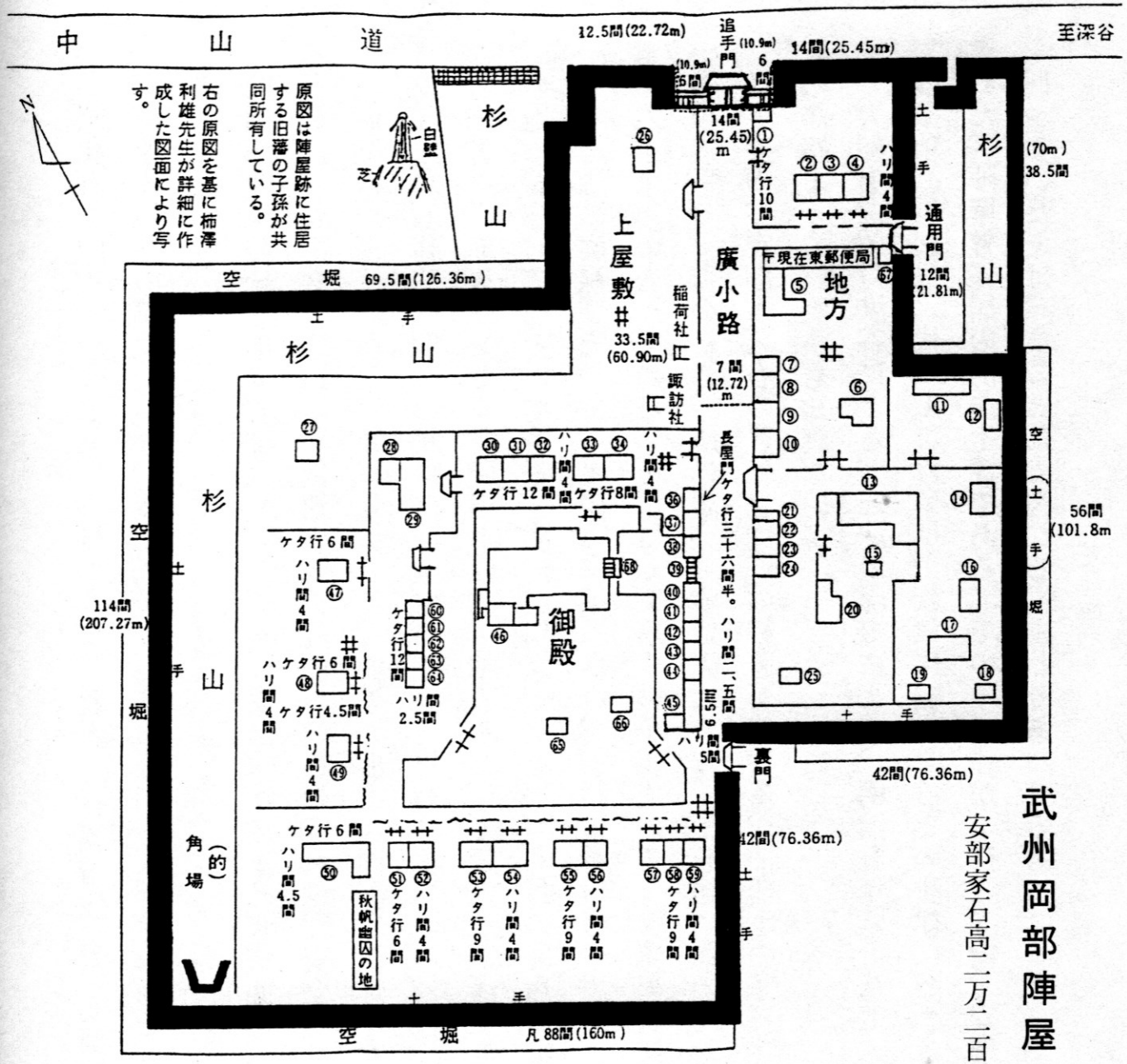
ＪＲ高崎線
岡部駅
白蓮寺
源勝院
岡部
陣屋
至る深谷駅
岡部
JR
高崎線
上野東京ライン
湘南新宿ライン
北武蔵広域農道
コスモス街道
普済寺
稲荷神社
柿澤商店
普済寺
深谷市立岡部小
柿源漬物(株)
Artisan
352
259
17
有限会社 西倉西間堂
グループホーム
五感の里・岡部
ごめん食堂
グループホーム
ふわふわ深谷
カフェ
富義
関東分岐器
(株) 岡部工場
武蔵陸運(有)
美ゆき
希望が岡公園
愛宕神社参道
JA埼玉岡部
白蓮寺
諏訪神社
源勝院
岡部東郵便局
岡部公会堂
岡部藩陣屋跡
(株)内村電気
(株)富岡食品 第三工場
正明寺
うな和
トラットリア
ピアンティーナ
深谷市岡部・生涯学習
センター 岡部公民館
お食事処 久保田
深谷倉庫(株) 岡部倉庫
深谷市 環境水道
部 お客様センター
パンチャ・ピエーナ
あんしんホーム深谷
ローソン 深谷宿根店
埼玉ガス(株)
Vinhome center

岡部陣屋の場所は、国道十七号（旧中山道）の源勝院の前です。

岡部陣屋の図

岡部陣屋は、東西２３６ｍ南北２４７ｍ、面積は約４万８千平米でした。

岡部陣屋は土塁と空堀を巡らせていたと言われるが、払い下げで今は跡形もない。



武州岡部陣屋ノ図

安部家石高二万二百五十石

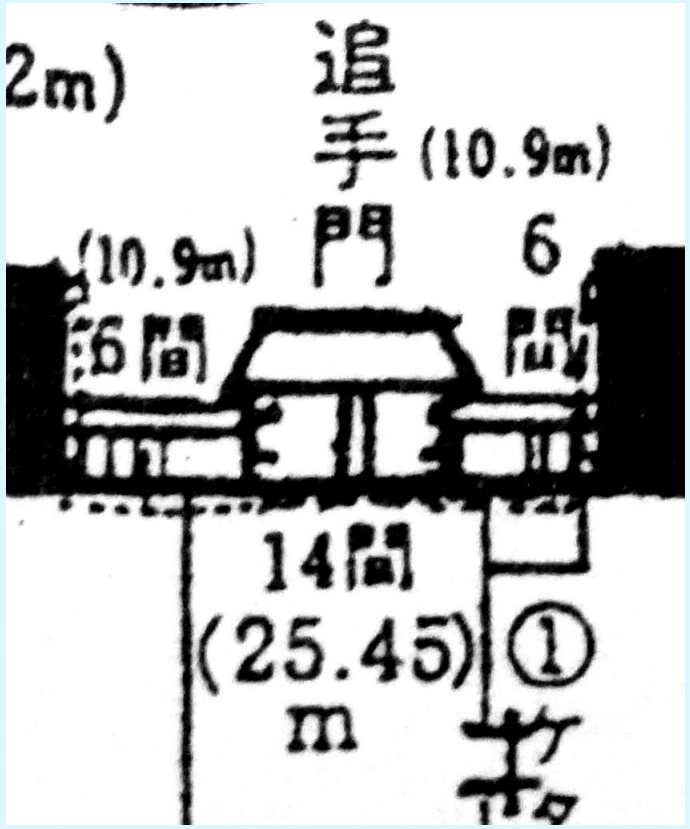
岡部陣屋の入り口

ここに追手門があった

（おうてもん）大手門とも

追手門のイメージ写真

（伊豆の国市の代官、江川邸の追手門の写真を借用）



↑　岡部陣屋の門は横幅25メートル　↑

岡部東郵便局
この左に地方通用門が
あった（じかたつうようもん）

地方通用門（個人宅に移築）

地方通用門（個人宅）

門を開けた時に、開けた門が濡れない様に、専用の屋根が付いています。下側は修復済。

長屋門（全昌寺にあった）

元々は、３６．５間（６５．７メートル）あったが、
７間（１２．６メートル）くらいに減築されていた。

残念な事に、取り壊されてしまいました。
（文化財に指定されてなかった）

「高島秋帆幽囚の地」の碑

（唯一の岡部藩顕彰碑）

（高島秋帆は砲術家。冤罪だったが、岡部藩では客人として優遇）

岡部藩の領主、安部氏の始まりは、信濃国諏訪郡の諏訪大社上社の諏訪氏でした。

（現在は長野県茅野市周辺）

諏訪大社四社まいりマップ

諏訪大社（すわたいしゃ）は、長野県の諏訪湖周辺に4か所の境内地をもつ神社です。

上社（かみしゃ）（本宮（ほんみや）・前宮（まえみや））

下社（しもしゃ）（秋宮（あきみや）・春宮（はるみや））

諏訪大社は信濃國一之宮。
神位は正一位。
全国各地にある諏訪神社
の総本社。

上社（本宮）

上社（前宮）

下社（秋宮）

下社（春宮）

天文11年（1542年）7月4日、諏訪頼重は、武田信玄の降伏勧告に対し、生命安堵・本領安堵・裏切者の高遠頼継の殺害を条件として、これを受け入れました。

武田信玄は、降伏した諏訪頼重の身柄を甲府へ連行し、同年7月21日、和睦条件を反故にして諏訪頼重とその実弟の諏訪頼高を切腹させました。

武田信玄の騙し討ちで、諏訪本家は没落しました。

岡部藩の諏訪神社

岡部藩の領地にある血洗島の鎮守社で、古来より武将の崇敬が厚く、源平時代に岡部六弥太忠澄が戦勝を祈願したといわれ、また、江戸時代に領主安部摂津守も参拝したと伝えられている

諏　訪　神　社

血洗島（ちあらいじま）の鎮守社で、古来より武将の崇敬が厚く、源平時代に岡部六弥太忠澄（ただすみ）は戦勝を祈願したといわれ、また、江戸時代に領主安部摂津守（あんべせっつのかみ）も参拝したと伝えられている。

大正５年（1916年）に渋沢栄一の喜寿を記念して村民により建てられた渋沢青淵翁喜寿碑が境内に残る。神社の拝殿は栄一がこれに応えて造営寄進したものである。

栄一は帰郷の際、まずこの社に参詣した。

そして、少年時代に自ら舞った獅子舞を秋の祭礼時に鑑賞することを楽しみとしていた。

境内には、栄一手植えの月桂樹があった。また長女穂積歌子が父、栄一のために植えた 橘（たちばな） があり、その由来を記した碑がある。

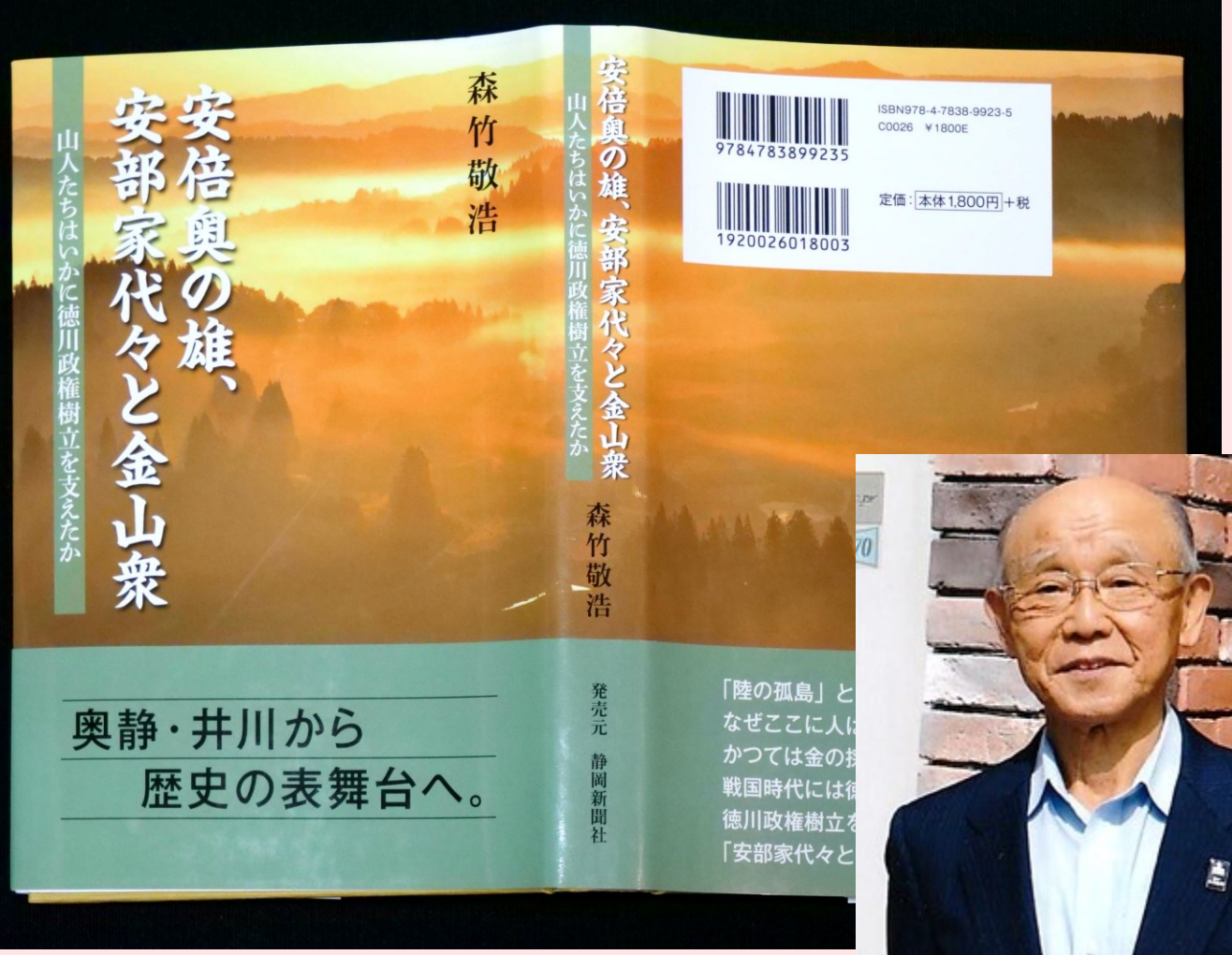
深 谷 市

安部氏の先祖は、信濃国諏訪郡の出身です。足利幕府の末ごろ諏訪氏は上社と下社が対立し、上社の諏訪総領家に由来する諏訪信光（のぶみつ）は駿河国安倍谷に移り住みました。

諏訪信光の子孫、諏訪頼眞（よりざね）・先代諏訪信眞（のぶざね）・始祖安部元眞（もとざね）は、駿河の今川家に仕官し、安倍谷の領主として、金山を経営しました。

先代の諏訪信眞(のぶざね)は、駿河国安倍谷井川の領主として統治した。安倍谷では砂金が採集され、金鉱山の採掘も。

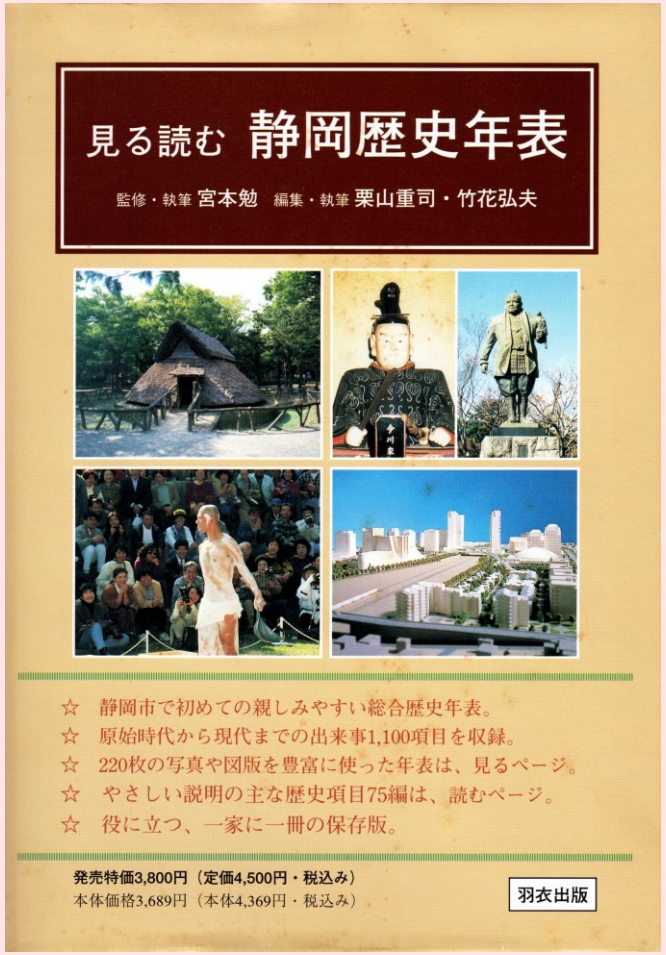
この信濃国諏訪郡から駿河国安倍谷への記述は静岡市「安部元眞公顕彰会」の森竹敬浩会長より教えていただきました。また書籍の提供もいただきました。素晴らしい資料です。



安倍奥の雄、安部家代々と金山衆

山人たちはいかに徳川政権樹立を支えたか

アマゾン等で購入可能　1980円



NHK日本百名山で、令和４年６月２７日に「山伏～広がる南アルプスの大展望～」の放送がありました。

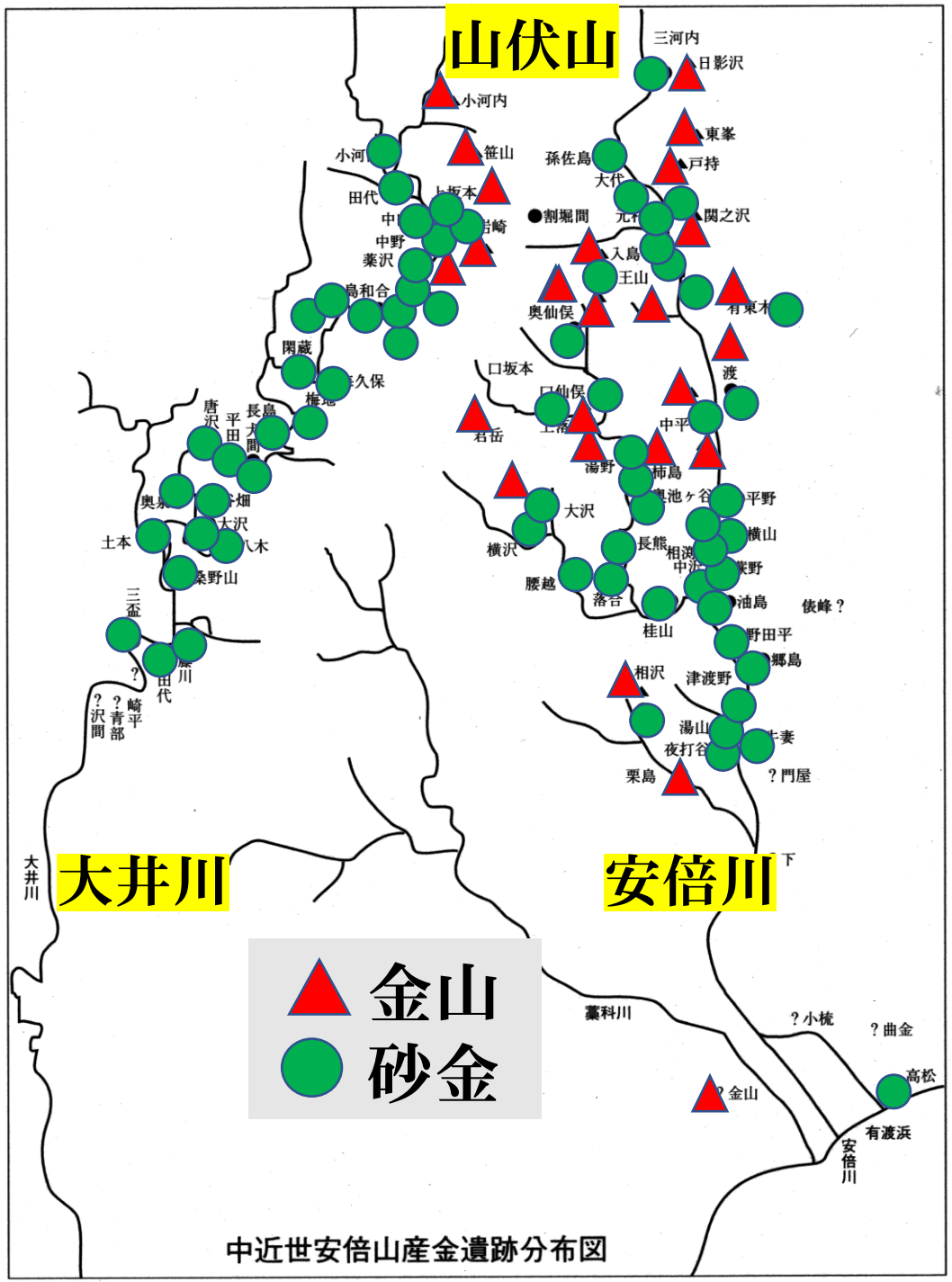
放送で『阿倍金山の金山と砂金堀場のイラスト』があったため、放送動画の利用と元資料について問い合わせました。

動画の利用は、著作権から認められませんでしたが、元資料は教えてもらいました。

羽衣出版「見る読む静岡歴史年表（宮本勉）」52頁

始祖安部元眞（あんべもとざね）からは、安部姓を名乗っています。

安倍谷は砂金や金鉱山があり山伏（やんぶし）山の麓は「安倍金山」と呼ばれていました。（あべのかなやま）



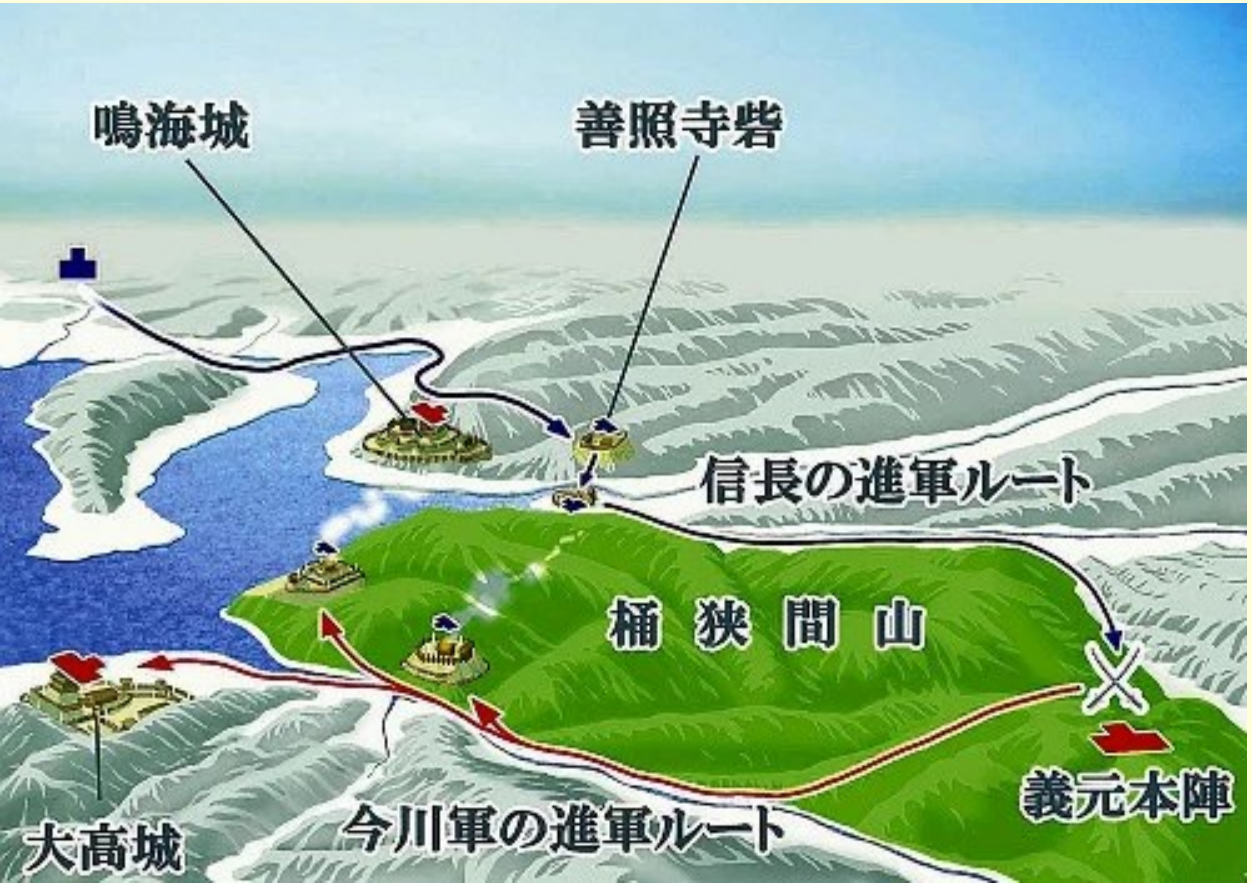
中近世安倍山産金遺跡分布図

「見る読む静岡歴史年表」白黒を着色

永禄の頃、始祖安部元眞（もとざね）は駿河国で今川に仕えていた。

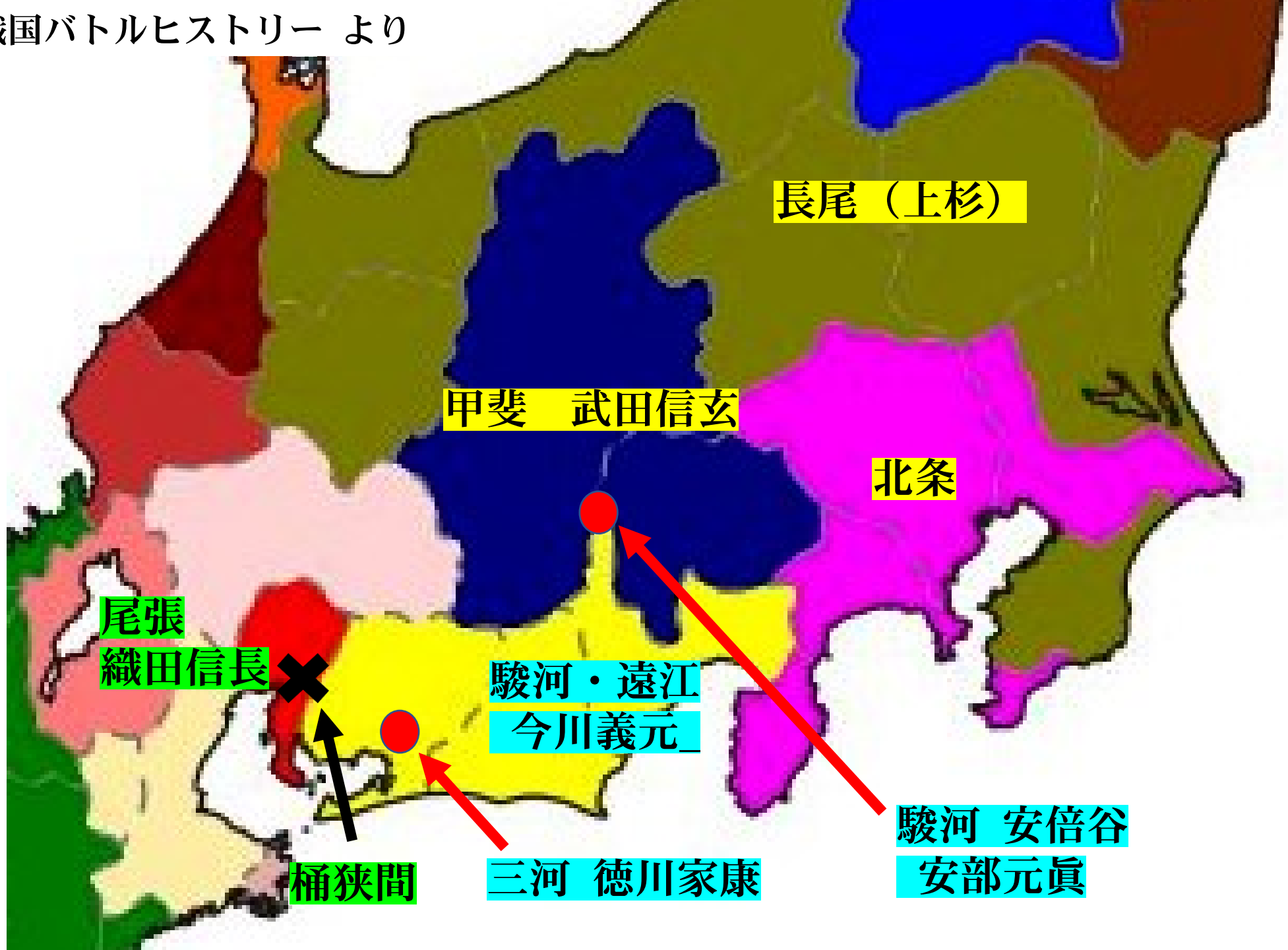
永禄3年（1560年）に今川義元軍は2万5千人の大軍を率いて尾張に侵攻した。

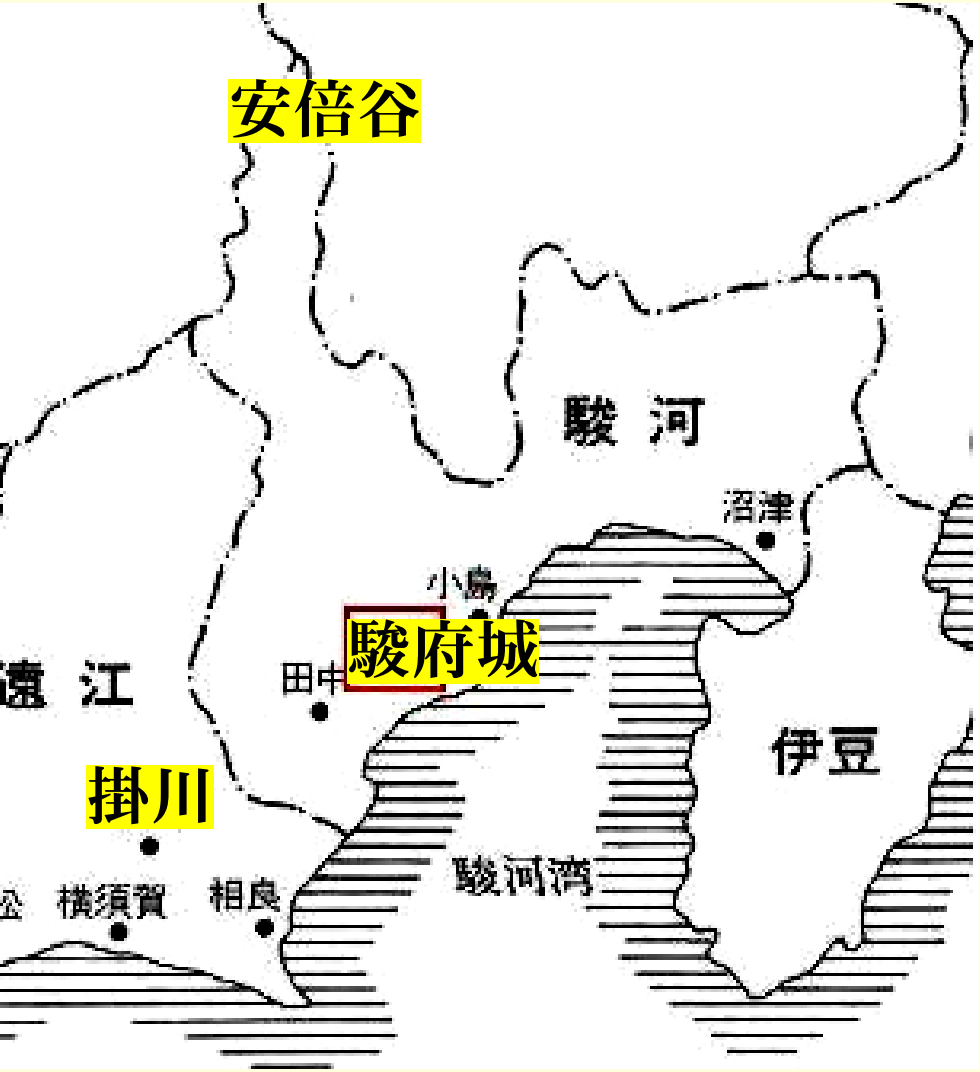
尾張の織田信長の戦力は2千人だが、桶狭間で奇襲し、今川義元は討ち取られた。



戦国バトルヒストリー より

桶狭間の戦い勢力図





永禄11年、今川氏の領土に甲斐の武田信玄が駿河侵攻してくると、始祖安部元眞（もとざね）は駿府城で迎え撃つが敗れ、自領の安倍谷に退散した。

永禄12年、武田信玄によって駿河が攻められると今川氏真（うじざね）は敗れて掛川に退いた。

今川家臣の始祖安部元眞（もとざね）は安倍谷を守った。安倍谷の攻防で、今川家の他の家臣は三十倍の俸禄で講和して武田方に付いた。しかし、始祖安部元眞は諏訪家の遺恨があったため恭順しなかった。

しかし、武田方の夜襲で父母を殺され、安倍谷を奪われたが、安部元眞は何とか生き延びた。

今川氏真が徳川家康の家臣となったため、安部元眞も徳川家康の家臣となった。

そして、始祖安部元眞（もとざね）は遠江国伯耆塚（ほうきづか）城に入城し、仇敵・武田氏と戦い、諸戦で戦功をあげた。

安部元眞公顕彰会　作成資料

静岡市井川本村（いかわほんむら）にある龍泉院は、格式のある寺です。裏手には龍泉院の開基始祖安部大蔵元眞公の墓がある。（もとざね）

なぜ始祖安部元眞（もとざね）は戦に強かったのか？

駿河国安倍川流域では砂金が採集できた。

財政が豊かで戦費を入手できた他、金山の金掘り衆を呼び寄せ、坑道を掘って城内に突入したり、井戸を壊して城を陥落させた。

当時の金掘り衆は、労働者では無く、野武士の集団でした。

始祖安部元眞の子・信勝も徳川家康に仕えた。

安部信勝は、天正11年（1583年）には後北条氏の甲斐国本巣の砦（山梨県富士河口湖町本栖）を攻め落とした。

同年6月の蟹江城合戦（愛知県蟹江町）では、石川数正（後に羽柴秀吉に寝返り深志城主）と共に前田長種が守る前田城（蟹江城の支城）を攻め、前田長種を破った。

翌天正12年の小牧・長久手の戦いでも戦功を挙げた。

織田信雄が徳川家康を頼り、羽柴秀吉軍10万人と愛知県を中心に各地で全面戦争。織田・徳川連合軍3万人が勝ったが、織田信雄が羽柴秀吉と和議したため、戦いは終わった。

安部信勝は、天正18年（1590年）徳川家康が関東に移封された際、武蔵国榛沢郡と下野国梁田郡内（足利市の一部）の五千二百五十石の領地を賜り、旗本となった。

安部信勝は旗本となったため、安倍谷の統治を父（始祖安部元眞）の娘婿の海野本定（もとさだ）に任せた。

安部信勝は関東に領地をもらったが、徳川家康の家臣として、大坂城に留まった。

安倍谷の多くは、静岡市井川本村（いかわほんむら）のダム湖に沈んでいます。

静岡市井川本村

大井川鉄道「大井川本線」は、静岡県島田市の金谷駅と同県榛原郡川根本町の千頭駅を結ぶ39.5 kmの鉄道。
ＳＬトーマス号などで有名。

南アルプスあぷとラインは、大井川鉄道　「井川線」の愛称で、静岡県川根本町の千頭駅から、静岡市の井川駅を結ぶ、25.5kmの山岳鉄道路線。
※アプト式はレールに歯車

慶長5年（1600年）1月2日、旗本安部信勝は大坂において49歳で死去。

安部信盛は、父・信勝の家督を継いだ。

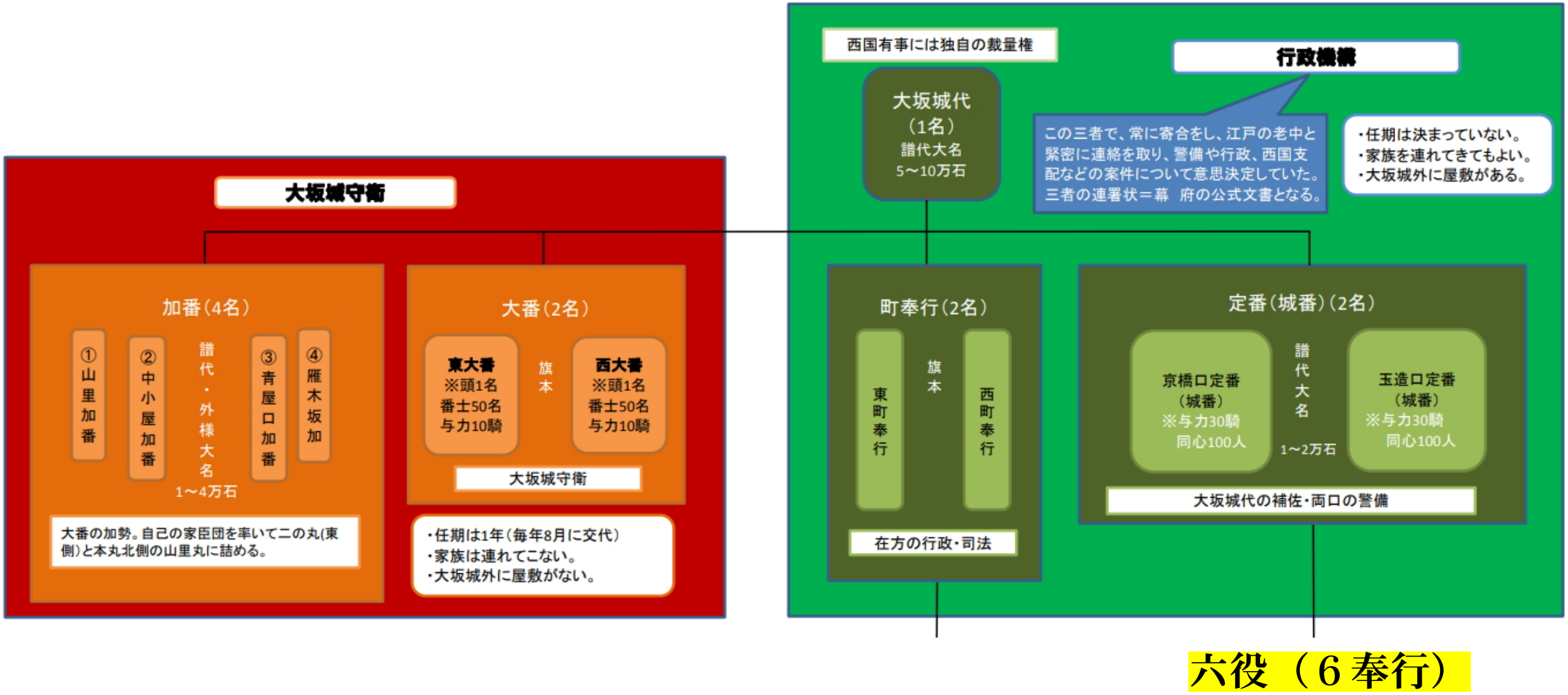
安部信盛は、関ヶ原の戦い、慶長19年（1614年）からの大坂の陣などに軍功を挙げ、大坂城の大番頭・大坂定番などに出世した。

大坂城の大番頭（おおばんがしら）や定番（じょうばん）について説明しましょう。

大阪城の役職

①城主は徳川将軍
②城代家老
③常番　京橋口・玉造口
　　２つの門の警備隊長
④加番　追加の警備隊長
⑤大番頭　警固番衆の長
⑥奉行　８人の各種奉行

大坂城方役人の職制



六役（６奉行）

江戸時代、大坂城は幕府直轄の城で、城代（一人）・定番（二人）・大番（二組）・加番（四人）が士卒を率いて警備にあたっていた。

城代は、老中・所司代につぐ重職で、大坂城の守衛とともに西国大名の動静を監視する任務も帯びていた。五～十万石級の譜代大名から選任。

副城代格の定番は京橋口定番・玉造口定番の二名で、一～二万石の譜代大名から任じられた。

大番は幕府の直属軍事力の中枢で、全体で十二組。一組は番頭一人、組頭二人、番士五十人で編成され、一組に与力十騎・同心二十人が付属していた。

二組ずつが一年交代で大坂城及び二條城の守りにつき、八組は江戸城の警備にあたっていた。

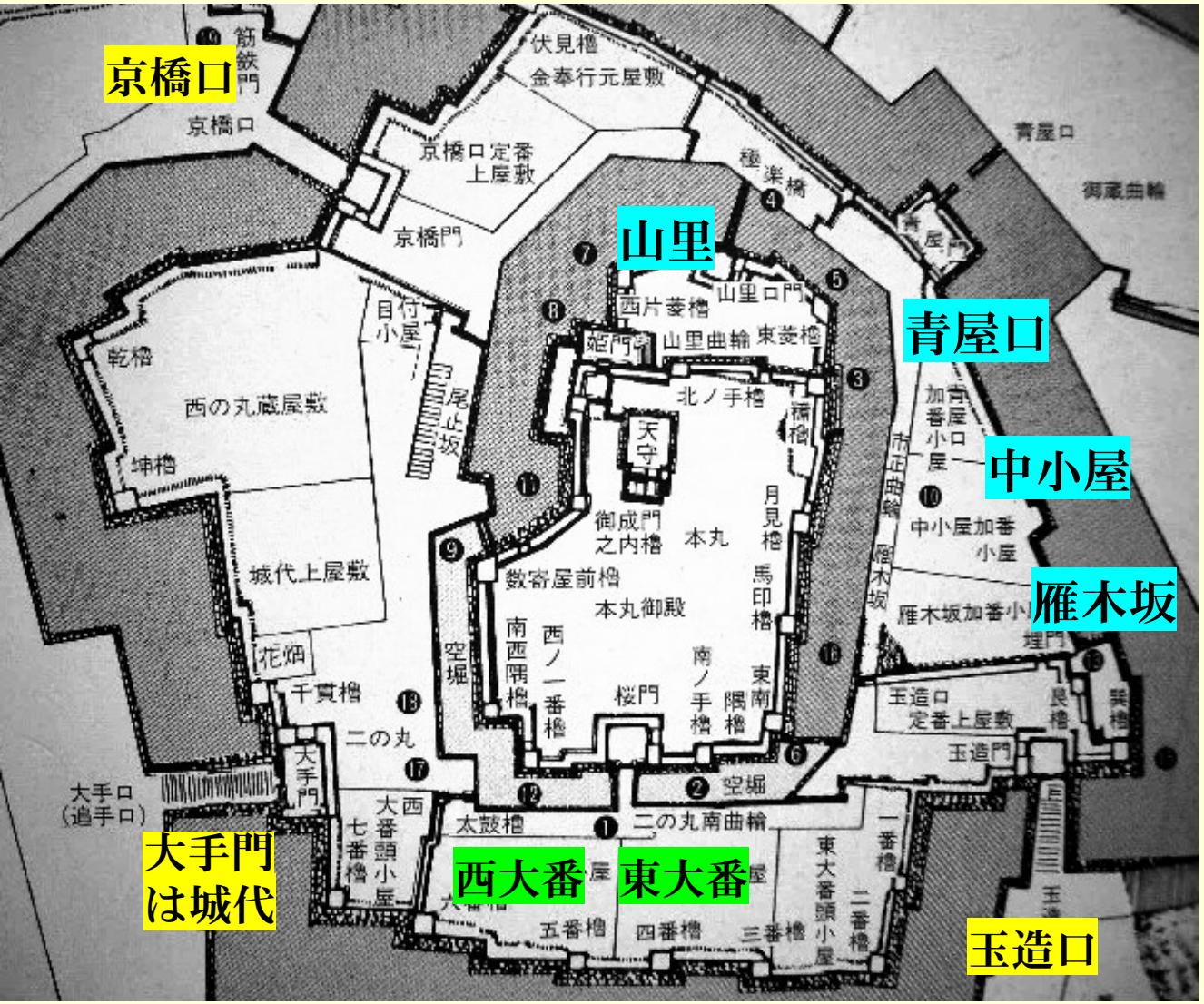
役高は大番頭が五千石高、組頭が六百石高、番衆が二百俵高で、大坂・二條の在番の際は本高の一倍物成の合力米が給された。

大坂在番の大番二組はそれぞれ東大番、西大番として勤務した。

加番は正規の勤番者である大番の加勢として置かれ、山里加番、中小屋加番、雁木坂加番、青屋口加番、雁木坂加番として城内各所に配された。

一～四万石の小大名の任であり、役高の米と同量の合力米が与えられたので、財政難の小大名は願ってこの役を勤めた。

大坂城の警備体制図



安部信盛は、慶安2年（1649年）に一万九千二百五十石の所領を領したため、諸侯に列し、ここに岡部藩を立藩し、**初代**藩主となった。

ここでは岡部藩と書きましたが、当時は実際には岡部には陣屋も無く、大阪の摂津にある桜井谷の領地、豊島（てしま）郡から、第三代までは、豊島（てしま）藩と呼ばれることもあった。

何しろ「摂津守」ですから。

	氏名	官位・通称・役職など
先代	諏訪信真(のぶざね)	先祖は信濃国諏訪→安倍谷へ 駿河国の今川家の家臣
始祖	安部元眞(もとざね)	金山管理、大蔵(財政)尉(三等官)
旗本	安部信勝(のぶかつ)	徳川家康から5250石の領地

歴代	岡部藩主	官位・通称	役職など
初代	安部信盛 (のぶもり)	従五位下　摂津守 1万9250石	大坂定番
二代	安部信之 (のぶゆき)	従五位下　丹波守 2万250石	大坂定番
三代	安部信友 (のぶとも)	従五位下　摂津守 2万2250石	大坂定番

歴代	岡部藩主	官位・通称	役職など
四代	安部信峯 (のぶみね)	従五位下 丹波守	信峯の母は鳥羽藩主内藤忠政の娘。 浅野内匠頭の母と姉妹のため忠臣蔵に連座、後に解除。 岡部陣屋設置
五代	安部信賢 (のぶかた)	従五位下 摂津守	
六代	安部信平 (のぶひら)	従五位下 摂津守	大坂加番

歴代	岡部藩主	官位・通称	役職など
七代	安部信允 (のぶちか)	従五位下　摂津守	大坂定番、 藩邸に就将館
八代	安部信享 (のぶみち)	従五位下　摂津守	大坂定番
九代	安部信操 (のぶもち)	従五位下　摂津守	大坂加番、江戸一橋門番・馬場先門番
十代	安部信任 (のぶより)	従五位下　丹波守	大坂加番
十一代	安部信古 (のぶひさ)	従五位下　摂津守	大坂加番、日光祭礼奉行

歴代	藩主	官位・通称	役職など
十二代	安部信宝 (のぶたか)	従五位下 摂津守	大坂加番 高島秋帆を預り 皇女和宮の警護 二条城番 代官が渋沢栄一を侮辱
十三代	安部信発 (のぶおき)	従五位下 摂津守	天狗党の乱を鎮圧 日光祭礼奉行 新政府軍に恭順 半原に引越

十三代安部信発(のぶおき)

最後の藩主・安部信発は慶応４年、勅命により上洛し、新政府に恭順を誓った。

信発は新政府に対して本拠を三河半原藩に移すことを嘆願し許可され、以後は半原藩として存続する。

安部氏は武蔵国岡部を本拠としていたが、三河半原や摂津桜井谷・瓜生にも所領が分散していた。２万石余りの内、本国武蔵と隣国上野には合わせても５千石程度の所領しかなく、飛地である筈の摂津に約８千石、三河に約７千石といういびつな所領形態を有していた。

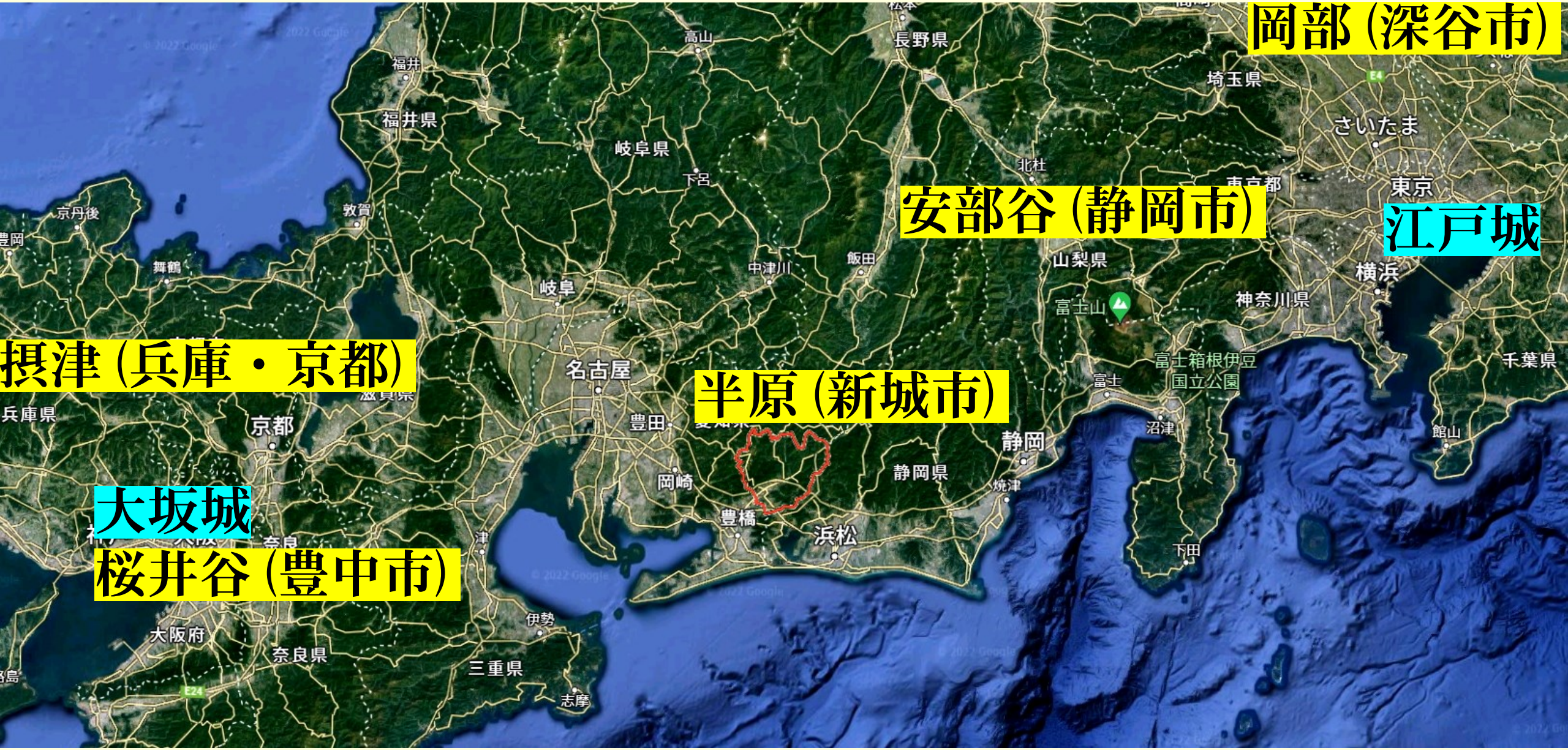
なお、十三代安部信発（のぶおき）には子孫が無く、安部家は絶えてしまいました。源勝院には藩主としての墓がありません。

岡部藩は半原藩へ引っ越した

半原藩（はんばらはん）は、岡部藩が慶応４年（1868年）４月に藩庁の所在地を三河国八名郡半原村（現在の愛知県新城市富岡）に移転したことによって成立した。

中山道の沿線は物騒なのと、岡部は領地が少ないので、半原に移転した。

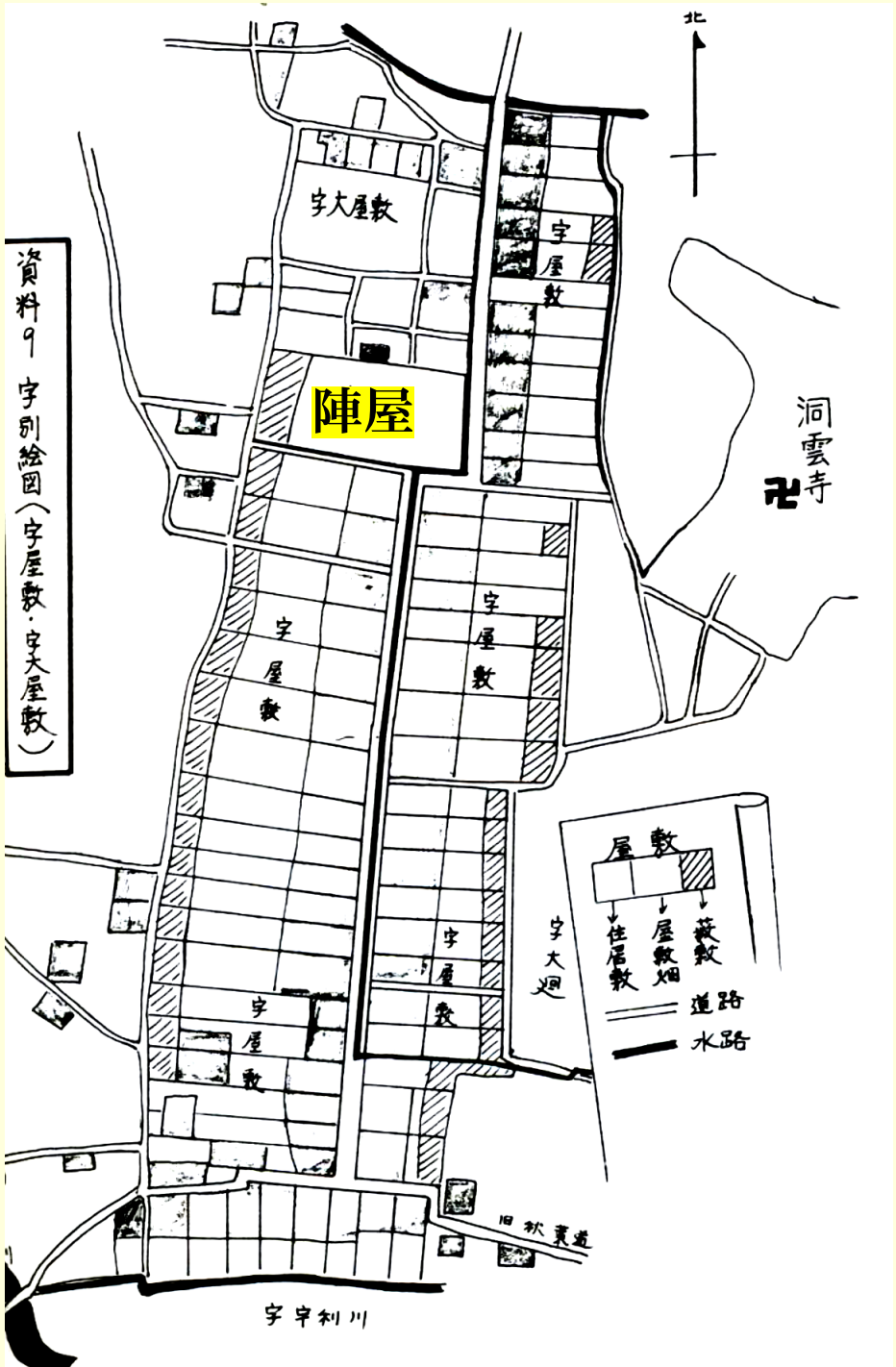
半原藩は三河国八名郡半原村へ（愛知県新城市富岡）



私は、平成27年6月4日に、愛知県新城市の富岡公民館を訪ね、半原藩の遺跡を訪ねてきました。

寛永１３年（1636）に領主となった安部氏は、半原に代官役所を置き、明治４年（1871）の廃藩置県まで、代々この地を治めました。

安部氏は、半原代官役所の周辺（富岡中部の字屋敷）を屋敷風に宅地造成しました。

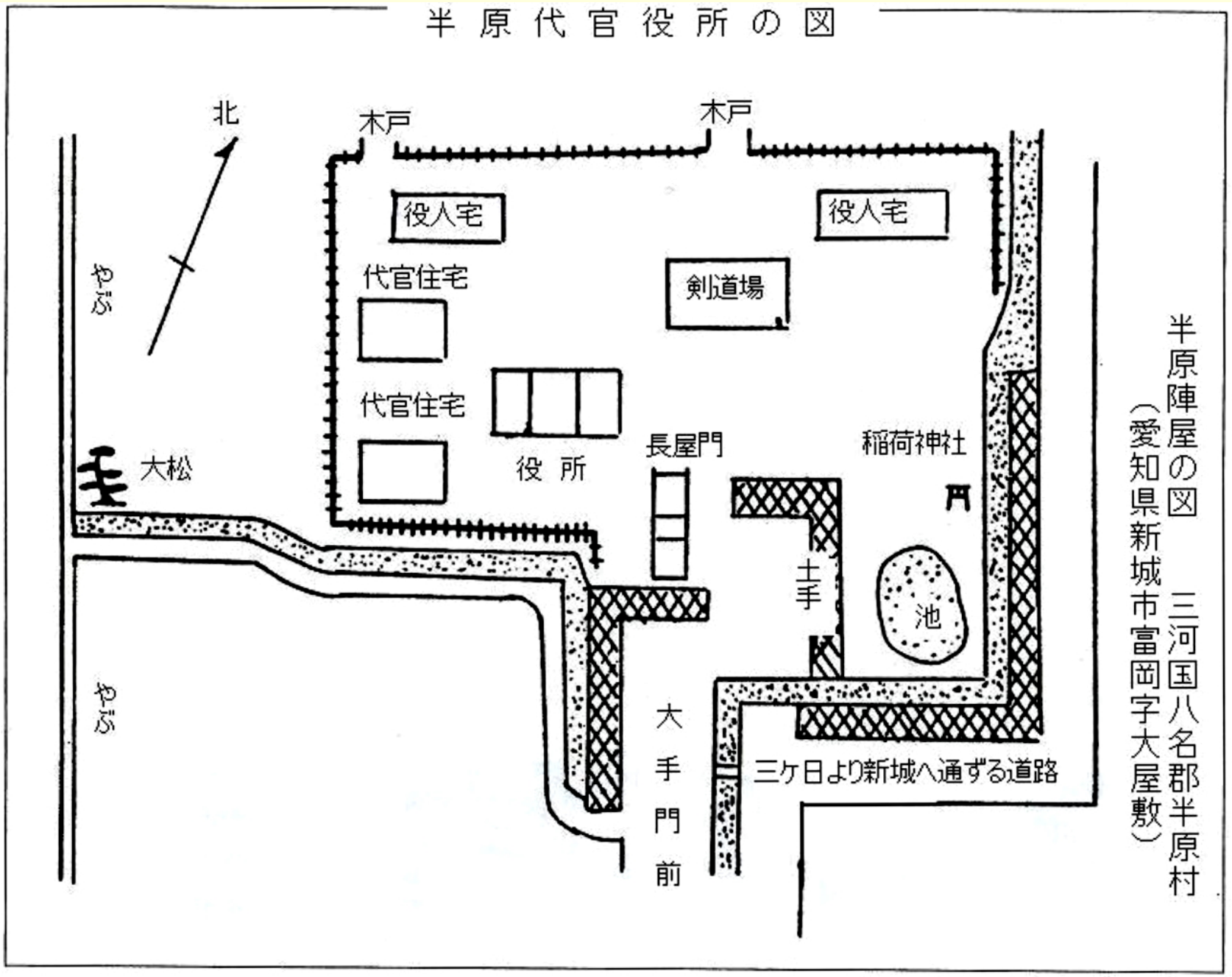


資料9 字別絵図（字屋敷・字大屋敷）

安部氏の政治は、農民に対して比較的寛大だったようで、百姓一揆や飢饉による争いの記録はみられません。

半原藩の半原陣屋の図

広さ東西59間（106ｍ）南北45間（81ｍ）
役所　東西6間（10ｍ）南北3間（5ｍ）
代官2~3人、手代2~3人、役人3~4人
足軽数人、仲間（ちゅうげん）数人
全員で20人くらい、日勤は10人足らず



半原陣屋の図　三河国八名郡半原村
（愛知県新城市富岡字大屋敷）

安部氏は、村人の心を安定させたいと考え、半原村、堀切（ほっきり）村、大原村の助けを得て、真言宗の洞雲寺を建てました。

洞雲寺には、半原藩士族の供養塔や、中村メイコさんが建てたお墓もあります。メイコさんの母方の先祖、菊地安兵衛は岡部藩の名だたる重臣でした。

最後の藩主となる安部信発は、薩長の官軍の動きが活発となった慶応４年（1868）３月、藩財政の窮乏を口実に半原への移転を願い出て、藩をあげて半原に移りました。

慶応４年（1868年）４月に移転しましたが、明治４年（1871）７月に版籍奉還となり、３年３か月間で半原藩は無くなりました。

禄を失った藩士の生活の窮乏はあわれなものだったという。

半原藩邸跡の碑

その後、重臣鈴木伝氏の長男鈴木栄氏の尽力で半原藩邸跡の石碑が建てられた。

鈴木伝氏（明治初年撮影）

愛知県新城市の富岡公民館から私に電話があり、平成29年1月23日に「新城市富岡地区の自治会長会」がバスで視察に来ました。

岡部郷土文化会と源勝院の多大な協力をいただき、視察は無事に終わりました。

新城市富岡地区の視察用に作成した

「バス車内の案内」

「視察概要」

ビデオを紹介します。

岡部藩の岡部陣屋概要

現在の地図に斎藤伊勢松氏が作成した「岡部藩始末」の岡部陣屋図面を重ねてみました。

岡部の源勝院

本堂

山門

源勝院の案内看板

源勝院

源勝院（曹洞宗）は、岡部の地を領地とした安部家の菩提寺としてつくられた寺で、境内墓地の一角に二代信盛から十三代信寶まで十二基の屋根付位牌形の墓碑が東向きに南から北へ世代順に並んでいる。

天正十八（一五九〇）年、徳川家康の関東入国とともに、初代安部弥一郎信勝に岡部領が与えられた。信勝は、亡父大蔵元真追福のため、人見村（現深谷市）昌福寺八世賢達和尚を招き、源勝院の開基とした。初代の信勝は、当時徳川家康と石田三成との対立が激しくなったので、家康に従い大坂城に詰めていた。慶長五（一六〇〇）年に、大坂城詰所で死亡し、大阪の鳳林寺に葬られた。安部家は、初代以降岡部の地を領し、大字岡部の一角に陣屋を置いた。

源勝院表門を入ってすぐ左手に安部家の祖、安部大蔵元真（信勝の父）の碑がある。安部氏は信州諏訪の出で、駿河国（静岡県）安部川の上流、安部谷に移り住み、元真の時はじめて安部氏を名乗った。元真は、はじめ今川義元に仕えたが、後に徳川家康に仕え、甲斐の武田信玄、勝頼父子と戦い、おおいに戦功をあげた。

安部家歴代の墓及び、安部大蔵元真の碑は、市指定文化財となっている。

平成三年三月

埼玉県
深谷市

源勝院の案内看板は、平成三年に当時の岡部町役場が掲示したものですが、致命的な欠陥があります。

初代藩主を「安部信勝」と位置付けたことです。信勝は五千二百五十石の領地をもらい、譜代の旗本となりましたが、大名ではありません。大坂常番となり一万九千二百五十石の大名となった「安部信盛」が初代藩主です。

「安部川」「安部谷」も、「安倍川」「安倍谷」が正しい文字です。

何よりも、岡部藩や岡部陣屋の遺跡や顕彰碑が一つも無い事が問題です。

「高島秋帆幽囚の地」の碑が、唯一の岡部藩関連と言うのも寂しい限りです。

地積などを調査して、岡部陣屋の範囲を明確にする必要性も感じられます。

更に、全昌寺にあった長屋門は、残念な事に取り壊されてしまいました。これは、市が文化財に指定しなかった事にも原因があると思われます。

旗本安部信勝夫婦の宝篋印塔
（墓は大阪の鳳林寺にある）

源勝院

藩祖安部大蔵君碑

（墓は静岡市井川の龍泉院）

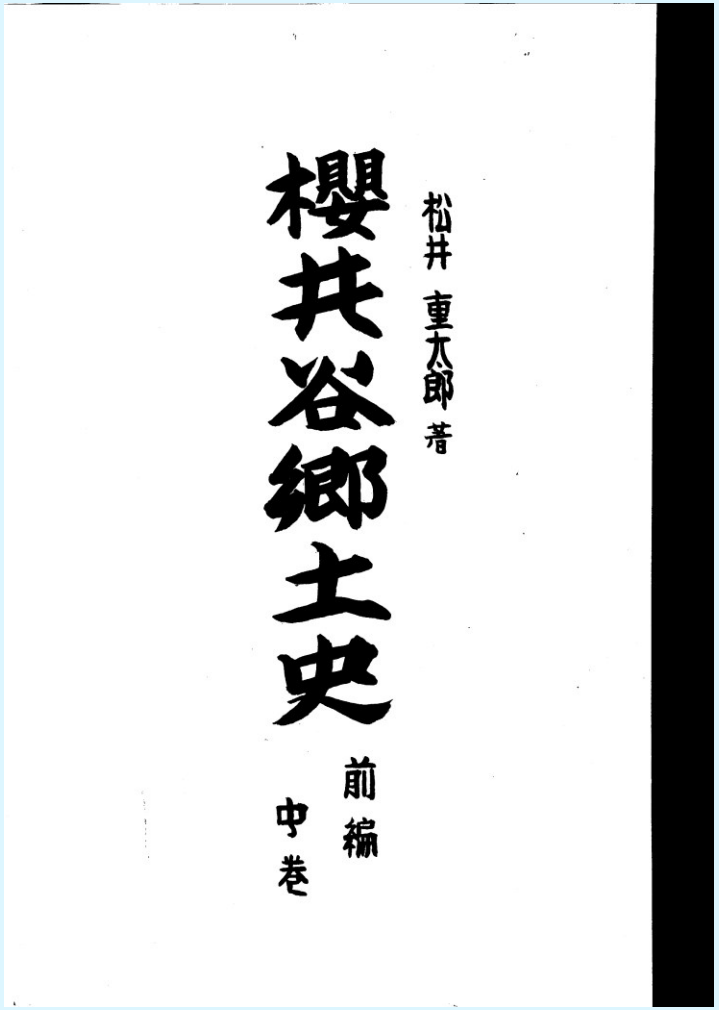
曹洞宗
最乗山 鳳林寺

安部摂津守信勝墓碑

安部信勝は武蔵国岡部藩主。
戦国時代徳川家康に仕え軍功のあった武将で慶長５年（1600年）大坂に没しました。この石塔はその子摂津豊島藩２万２千石藩主摂津守信盛が大坂城番であった慶安年間（1650年頃）に父信勝の菩提を弔って建立したものと言われています。

桜井谷について

大阪市豊中市で、資料送付にご協力いただき、「櫻井谷郷土史」のコピーを入手しました。



櫻井谷郷土史は、昭和6年に松井重太郎氏が過去資料から毛筆手書きで制作したものです。

その後、昭和61年に「豊中の歴史研究会」が楷書・新字体で手書きしたものです。

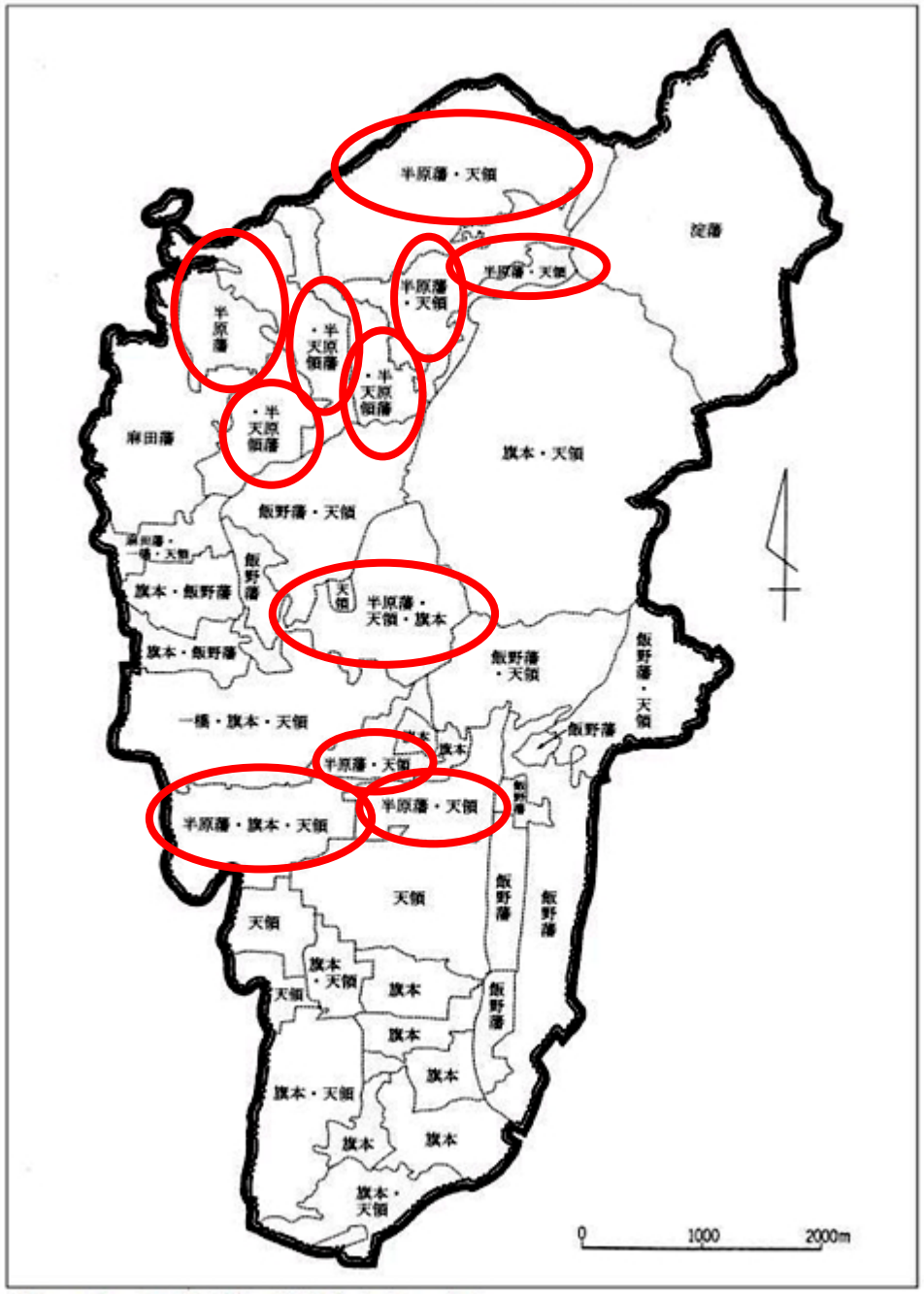
桜井谷陣屋

摂津の桜井谷の陣屋は、はじめ柴原村にあったが、のちに野畑村に移されたという。

大阪市豊中市の桜井谷陣屋は現在住宅街となっており遺構はない。

左の地図は、大阪市豊中市で、赤丸は岡部藩(半原藩)・他の領地。

幕末期豊中の所領配置



〔注〕 〈『旧高旧領取調帳 近畿編』をもとに作成〉

(出典)『新修豊中市史第8巻・社会経済』23頁，豊中市，2005年。

岡部藩の領地

国名（現在の県）	所在地
武蔵国（埼玉県） 岡部	榛沢郡（はんざわぐん）１１村　深谷市 岡部、普済寺、伊勢方、矢島、町田、阿加野 血洗島、上手計、下手計、大塚、岡下
上野国（群馬県）	新田郡（にったぐん）４村　太田市 中根、岩松、細谷、米沢
三河国（愛知県） 半原	宝飯郡（ほいぐん）２村　豊川市 鵜飼島、江村 八名郡（やなぐん）９村　新城市 賀茂、御園、八名井、塩沢、黒田、小畑、 中宇利、下宇利、半原

国名（現在の県）	所在地
摂津国（大阪府） 桜井谷	豊島郡（てしまぐん）１３村　豊中市 半町、北刀根山、内田、少路、野畑、柴原、 南刀根山、服部、曽根、桜、桜塚、利倉、垂水 能勢郡（のせぐん）３村　能勢町 神山、山辺、栗栖
摂津国（兵庫県）	川辺郡（かわべぐん）３村　尼崎市 久代、田能、下河原 有馬郡（ありまぐん）８村 中村西尾、中村結場、中村田尾寺、中村馬場、 下司堀越、下司岡場、下司切畑、上津上
丹波国（京都府）	何鹿郡（いかるがぐん）１村　綾部市 物部 天田郡（あまたぐん）３村　福知山市 土、興、安井

岡部の源勝院には、歴代藩主の墓が並んでいる。

始祖安部大蔵元眞の妻
白蓮院の菩提寺です。

始祖安部大蔵元眞の妻
白蓮院の宝篋印塔です。

さて、ここで疑問です

始祖安部元眞が移り住んだのは「安倍郡井川」の「安倍谷」で、大井川が流れ、近くには「安倍川」も流れています。

・・・

それなのに、何故「安部」を名乗ったのでしょうか？

「阿部」「安部」「安倍」

謎は深まります。

更に「あべ」ではなくて「あんべ」、この呼び方はいつから定着したのでしょうか？

私は最初に、「安部」と「安倍」の謎に挑みました。

「安部元眞公顕彰会」森竹敬浩会長の著書「安倍奥の雄、安部家代々と金山衆」でも、安倍谷井川の地名は「安倍」で人名は「安部」と異なっています。

また、駿府城近くの安部町が江戸時代に安倍町に変遷していったとも書かれています。

私には、まだ謎のままです。

私は過去に「阿部」と「安部」の違いを調べました。

「大阪府立中之島図書館」の「大坂城代・定番・町奉行・加番一覧」には、「初代安部信盛」と「二代安部信行」そして「三代安部信友の加番」までが「阿部と表示」され、定番の時から「安部摂津守信友」となっていました。

私は「阿部摂津守信友」が上司の「城代家老の阿部備中守正次」に対して同じ「阿部」では恐れ多いと「安部」に改名したのかなと考えました。

しかし「大阪府立中之島図書館」の詳細な調査の結果、後日「誤植で安部が正しい」との返事が届き、私は脱力してしまいました。（笑）

次に、古文書には、総て漢字で書かれてありますが、読み方は書かれていません。

私は「第三代阿部摂津守信友」が上司の「城代家老の阿部備中守正次」に対して同じ読み方の「あべ」では恐れ多いと「安部（あんべ）」に変更したのかなと考えました。

これは文献上では解明できませんでした。ところが・・・

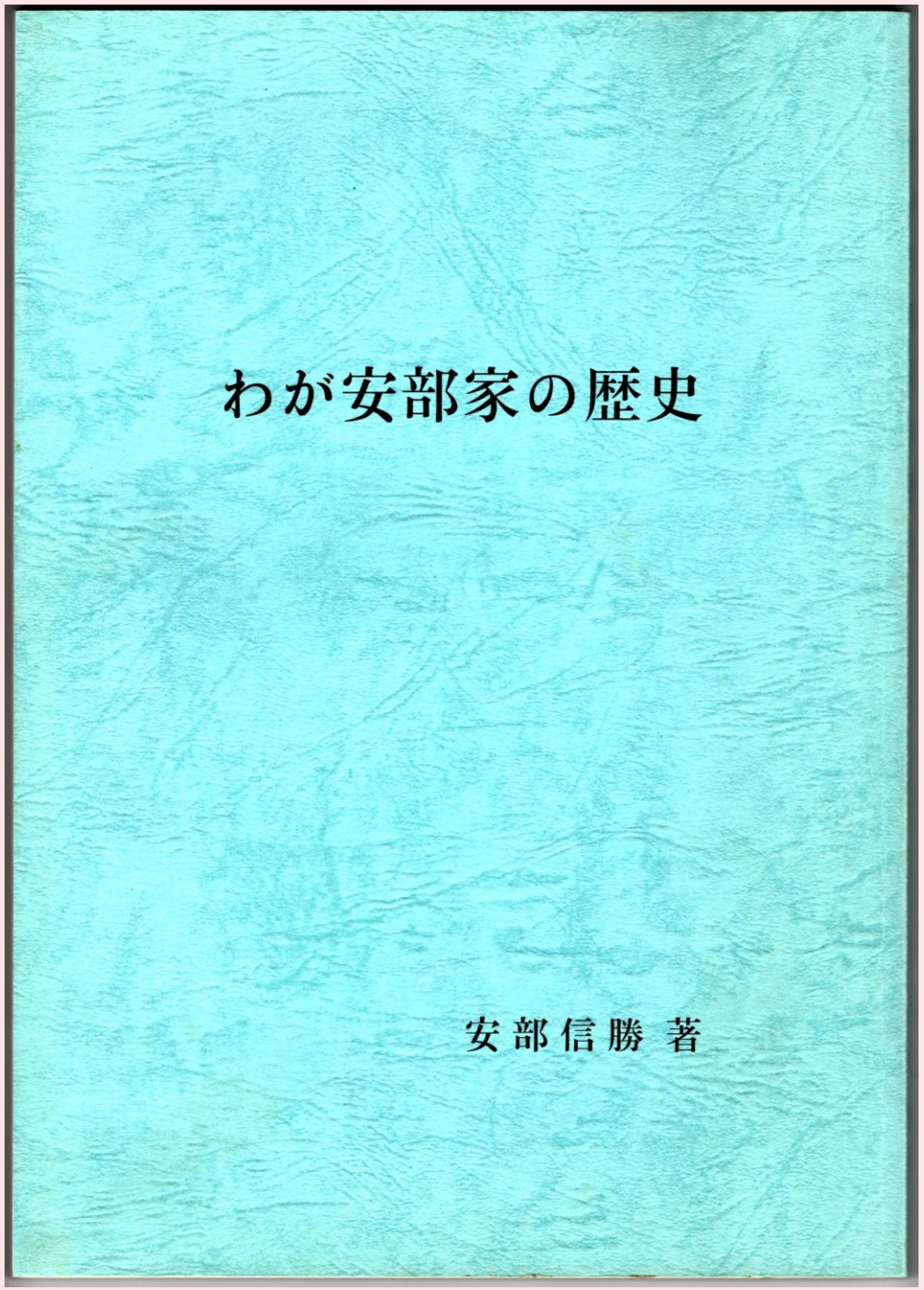
静岡市「安部元眞公顕彰会」の森竹敬浩会長から、大阪の摂津にお住まいの安部信勝様を紹介していただきました。

安部信勝様
（80歳当時）

安部信勝様は「第三代藩主安部信友の次男信方の子孫」で、「わが安部家の歴史」と言う著作（私家版）があり、ご子息の安部隆允様も研究を継続されています。

たかのぶ
安部隆允様
（現在75歳）

安部信勝様の「わが安部家の歴史」（私家版）及び安部隆允（たかのぶ）様の資料を見て驚きました。



私が探し求めていた「あべ」と「あんべ」の事が、詳しく書かれていたのです。

安部信勝様の「わが安部家の歴史」（私家版）と安部隆允（たかのぶ）様の資料では、「森山崩れ」（守山崩れとも）が原因で、徳川家康に仕官した時に、読み方を変えたと言う説です。

徳川家康の祖父、松平清康は安城から岡崎へと勢力範囲を拡大し、三河統一を成し遂げた。

松平清康は、守山城（名古屋市守山区）を攻めていたが、清康の家臣・阿部定吉が敵と内通しているとの噂が立ち、疑心暗鬼になった阿部定吉は、父が殺されたと勘違いして、清康を斬り殺した。

徳川家康の祖父、松平清康は三河を統一したが、家臣の阿部定吉に斬り殺された。息子の松平広忠（千松丸）は、まだ十歳の子供だった。松平家は弱体化し、その後、孫の竹千代は今川家に人質として送り込まれた。

孫の竹千代は、松平次郎三郎元信→松平蔵人元康→徳川家康と改名した。

竹千代（徳川家康）

犯人の阿部定吉は大蔵（財政担当）でしたので、阿部大蔵と呼ばれていました。

奇しくも、始祖安部元眞も大蔵尉（財政の三等官）でしたので、同じ呼び名になります。

そこで、徳川家康に仕官した時に、「あべ」から「あんべ」に読み方を変えたと言う説です。

歴史上の事実に基づいた内容で、説得力があります。

私もこの説に納得しました。

さて、始祖安部元眞の官位大蔵尉（おおくらのじょう）は、財政の三等官の意味です。

七世紀の後半、唐の律令をもとにして律令制が始まると、四等官制（しとうかんせい）も一緒に導入された。

①「長官（かみ）」
②「次官（すけ）」
③「判官（じょう）」
④「主典（さかん）」

四つの序列がありました。

「財政部長」「財政課長」「財政係長」「財政係員」の様な感じです。

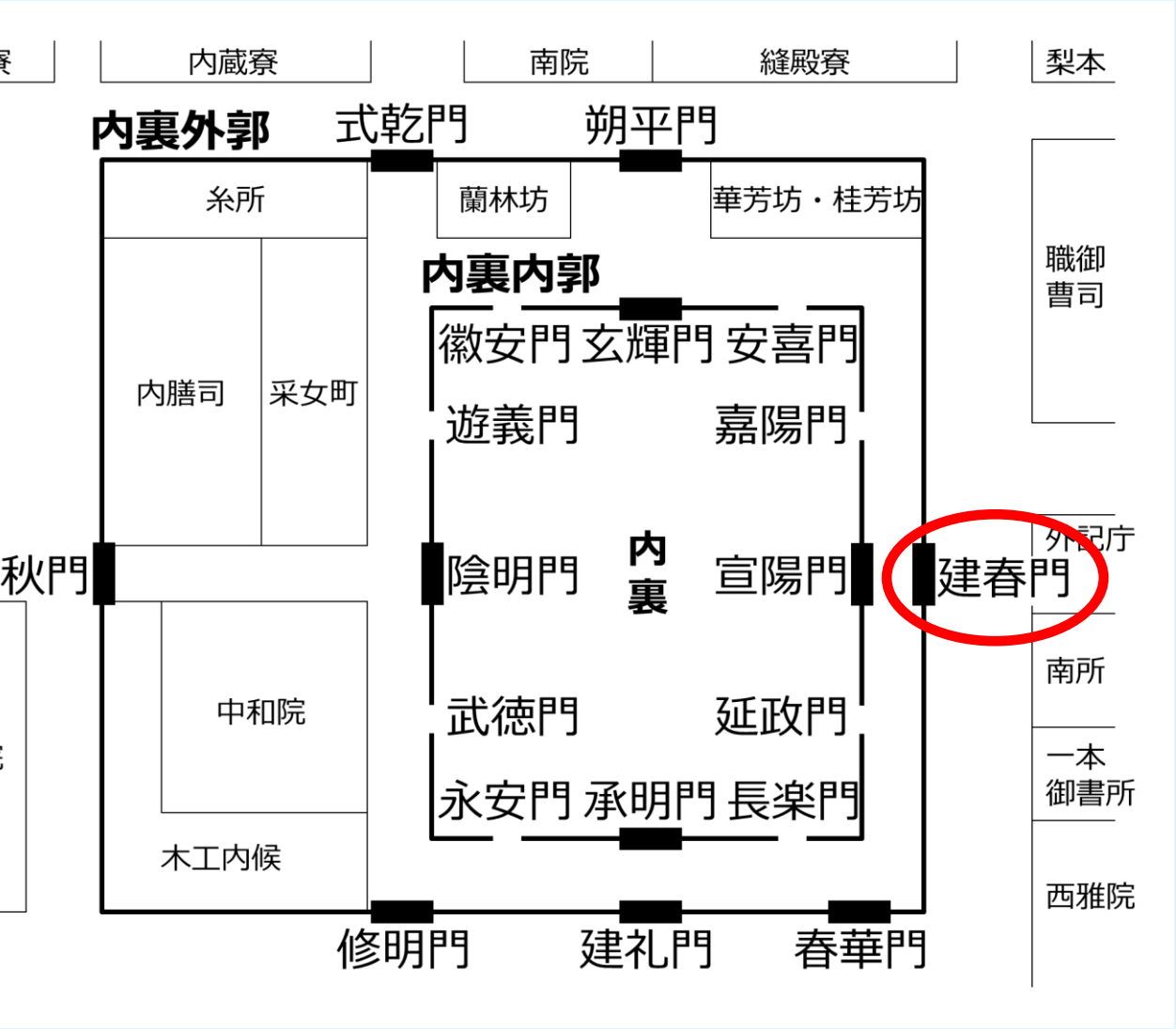
四等官制の表（一部省略）

官司	長官（かみ）	次官（すけ）	判官（じょう）	主典（さかん）
神祇官	伯	大副、少副	大祐、少祐	大史、少史
太政官	（太政大臣） 左大臣 右大臣	大納言 中納言 参議	少納言 左大弁、右大弁 左中弁、右中弁 左少弁、右少弁	大外記、少外記 左大史、右大史 左少史、右少史
省	卿	大輔、少輔	大丞、少丞	大録、少録
職	大夫	亮	大進、少進	大属、少属
寮	頭	助	允、大允、少允	属、大属、少属
司	正	–	佑	令史 大令史、少令史

・・・途中省略・・・

官司		長官（かみ）	次官（すけ）	判官（じょう）	主典（さかん）
国司	大国	守	介	大掾、少掾	大目、少目
	上国	守	介	掾	目
	中国	守	–	掾	目
	下国	守	–	–	目
郡司	大郡 上郡 中郡	大領	少領	主政	主帳
	・・・途中省略・・・				
令外官	検非違使	別当	佐	尉	志
	勘解由使	長官	次官	判官	主典
	鎮守府	将軍	–	軍監	軍曹

・・・以下省略・・・



平安京（京都）の内裏図

蛇足情報

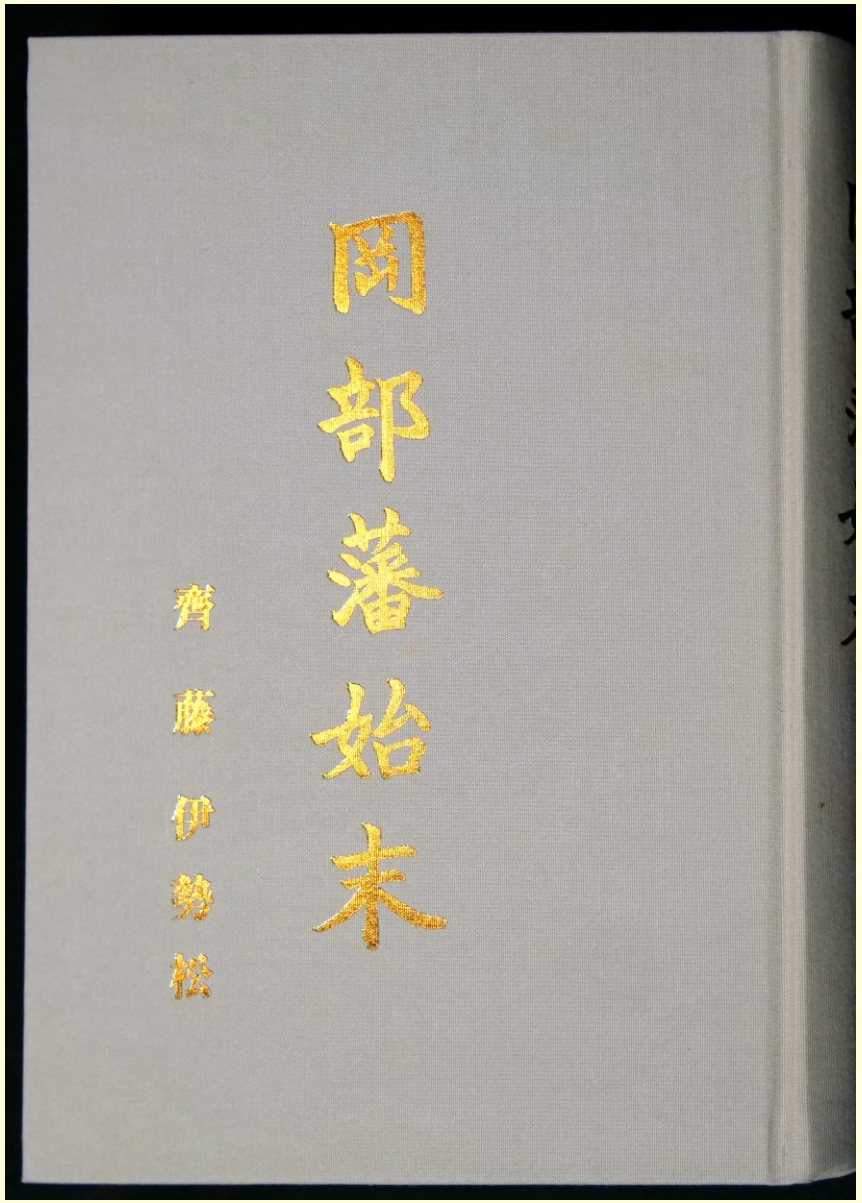
九郎判官（くろうほうがん）源義経のこと。左衛門尉だったことから。九郎は源義朝の九男だったことから。

左衛門尉（さえもんのじょう）とは、左衛門府（陣所は建春門）の判官であり、六位相当の官職であった

さて、安部家の歴代の藩主の官位は従五位下です。通称名は、大部分は摂津守が多く、丹波守もあります。摂津守は摂津国（桜井谷ほか）の領主ですが、摂津国全体の意味ではありません。丹波国何鹿（いかるが）郡や天田（あまた）郡にも領地がありました。

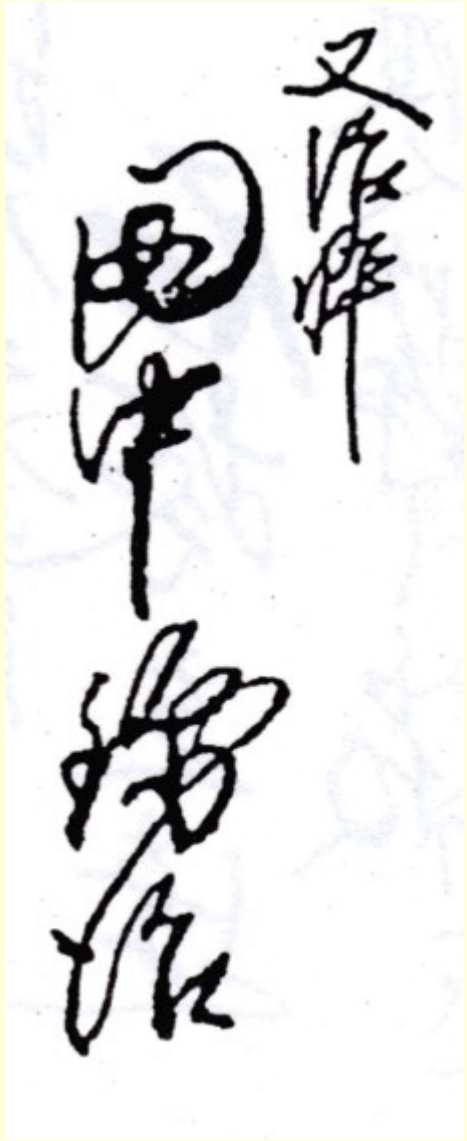
丹波守を名乗ったのは、第二代の信之、四代信峯、七代信允、八代信亨、十代信任ですが、後に摂津守を名乗っている人もいます。

斎藤伊勢松氏
（88歳当時）



岡部藩の地元資料は、斎藤伊勢松氏が作成した「岡部藩始末」に詳しく記録されています。

そして「岡部藩始末」には「明治３年従前分限帳控」と言う家来の一覧表が掲載されています。



「御扶持 弐人口
又治 倅
田中 鈞治」

と書かれています。

江戸時代、家来の給料は米で支払われていた。扶持米は一日に一升、年間で米の十弐人口は年俵が支給される。感覚的には年収３百万円程度の公務員でしょうか。

我が家の岡部藩

仏壇には、岡部藩の家臣だった
三世代の位牌が並んでいます

埼玉県本庄市生まれで、本庄市役所に就職。
最後の仕事が「塙保己一先生」の顕彰事業。
退職後もボランティアで塙先生の顕彰事業を継続。
　総検校塙保己一先生遺徳顕彰会　事業部会委員
　公益社団法人　温故学会　研究員

講演　「塙保己一の全般」「塙保己一と群書類従」
　　「塙保己一と小笠原島」「塙保己一とヘレンケラー」
　　「中山道伝馬騒動」「木曜島のキング佐藤虎次郎」
　　「岡部藩について」

住　所：366－0822　埼玉県深谷市仲町３－１
氏　名：　田中 学
メール：ｇａｋｕｓａｎ＠ｔａｎａｋａ．ｎｉｆｔｙ．ｊｐ